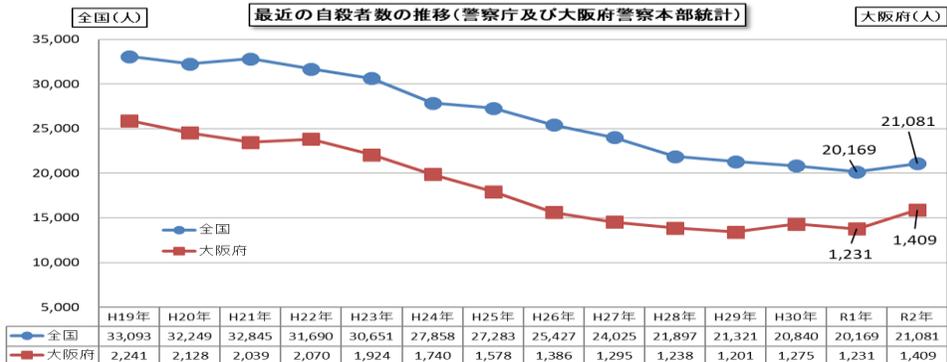


資料 3

大阪府における自殺の概要について

自殺の概要

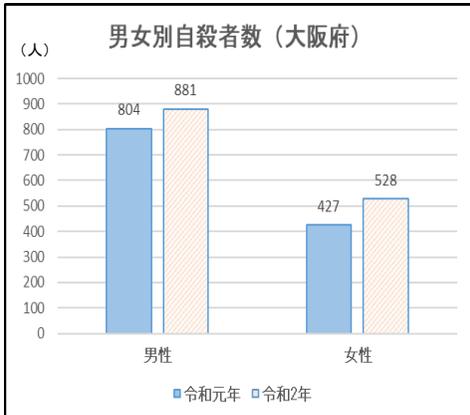
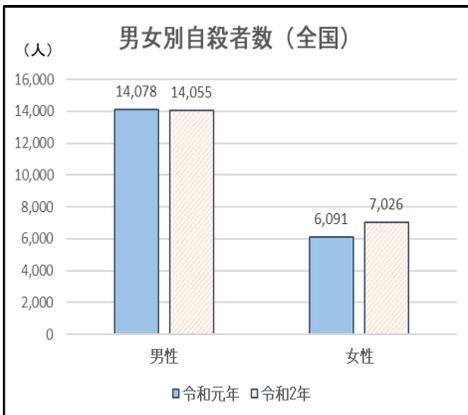


令和2年は、新型コロナウイルス感染症の拡大といった新たな要素があり、全国の自殺者数は11年ぶりに増加に転じるとともに、女性や若年者層の増加率が大きくなるなど深刻な状況となっており、大阪府の自殺者数も増加した。

○**令和2年の自殺者数は、前年より178人増の1,409人であった。**

○**令和2年の自殺死亡率は、16.0であった。(全国16.7)**

【男女別自殺者数 全国・大阪府】

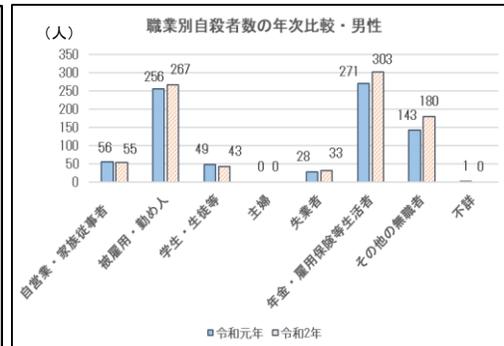
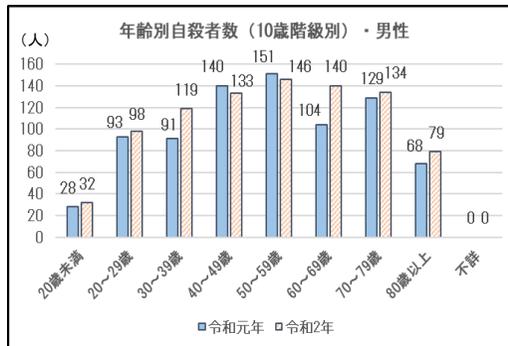


全国の自殺者数を令和元年、令和2年で男女別に比較すると、男性は23人減少しているが、女性は935人増加している。

大阪府では、男性は77人増加、女性は101人増加

◎保健、医療、福祉、教育、労働、法律その他の関連機関が有機的に連携し、総合的に自殺対策を推進することで、誰もが生きがいや希望をもって暮らすことのできる社会の実現をめざしましょう。

【大阪府 男性(年齢別自殺者数・職業別自殺者数)】

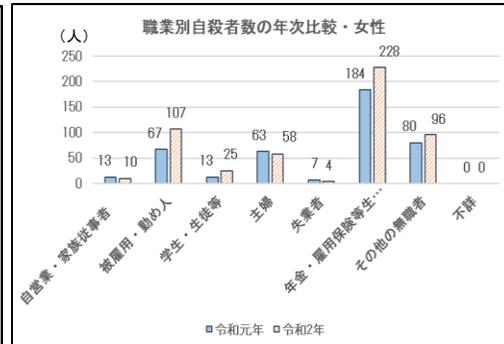
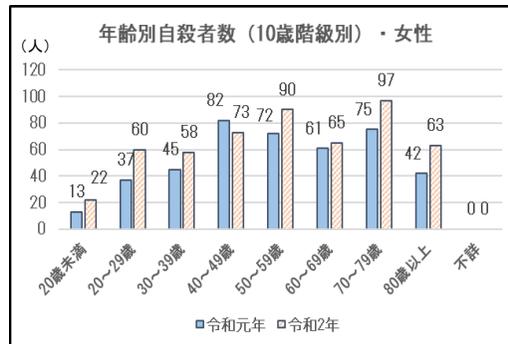


○「40~49歳」、「50~59歳」を除くすべての年齢で増加

特に「30~39歳」で28人(対前年増減率30.8%)、「60~69歳」で36人(34.6%)と前年から大きく増加

○職業別で前年から増加した上位としては、「**その他の無職者**」37人(25.9%)、「**年金・雇用保険等生活者**」32人(11.8%)、「**被雇用・勤め人**」11人(4.3%)

【大阪府 女性(年齢別自殺者数・職業別自殺者数)】



○「40~49歳」を除くすべての年代で増加

前年から大きく増加したのは、「20歳未満」9人(69.2%)、「20~29歳」23人(62.2%)、「80歳以上」21人(50.0%)

○職業別で前年から増加した上位としては、「**年金・雇用保険等生活者**」で44人(23.9%)、「**被雇用・勤め人**」40人(59.7%)、「**その他の無職者**」16人(20.0%)

なお「学生・生徒等」については12人(92.3%)と大きく増加

「支援対象事案情報提供書」受理台帳より

① 相談者(本人)の(年齢)×(性別)

令和元年度

年代 \ 男女	男性	女性	合計
0~19才	18	32	50
20~29才	32	102	134
30~39才	33	43	76
40~49才	42	69	111
50~59才	32	51	83
60~69才	23	13	36
70~79才	12	22	34
80才以上	10	14	24
不明	0	0	0
合計	202	346	548

令和2年度

年代 \ 男女	男性	女性	合計
0~19才	30	55	85
20~29才	41	101	142
30~39才	43	60	103
40~49才	32	68	100
50~59才	18	47	65
60~69才	13	11	24
70~79才	15	19	34
80才以上	13	11	24
不明	0	0	0
合計	205	372	577

- ※ 令和元年度の対象者は548人、2年度は577人で29人増加
- ※ 男性は微増であったが、女性が26人増加
- ※ 0~19歳が50人から85人と35人増加、40歳未満の若年層で260人から330人と70人増加

② 学生区分

続柄	令和元年度	令和2年度
小学生	0	1
中学生	6	19
高校生(府立高校)	5	9
高校生(府立高校以外)	17	16
大学生	14	15
専門学校生	6	6
合計	48	66

※中学生が令和元年度6人から2年度19人と13人増加

③ (年齢・性別)×(未遂手段内訳) ※複数選択

	年代	性別	①過量服薬	②刃物	③飛び降り	④首つり	⑤有機溶剤	⑥その他(未遂行為あり)	⑦その他(未遂行為なし)	⑧不明	⑨練炭	合計	
R元	0~19才	男性	2	3	0	0	1	2	10	1		19	53
		女性	10	8	4	1	0	1	10	0		34	
R2	0~19才	男性	3	3	7	3	0	2	12	1	0	31	87
		女性	16	10	6	4	0	2	16	1	1	56	
R元	20~29才	男性	8	2	5	9	0	3	4	2		33	142
		女性	43	30	5	3	0	9	19	0		109	
R2	20~29才	男性	6	6	3	8	0	4	13	1	1	42	146
		女性	38	21	7	7	1	6	22	0	2	104	
R元	30~39才	男性	7	8	7	3	0	1	8	0		34	79
		女性	14	11	3	4	0	2	11	0		45	
R2	30~39才	男性	6	15	0	3	0	5	13	1	1	44	110
		女性	28	13	4	8	0	4	7	1	1	66	
R元	40~49才	男性	8	10	7	2	0	3	11	1		42	112
		女性	24	20	2	3	0	4	17	0		70	
R2	40~49才	男性	7	4	3	9	1	4	6	0	0	34	102
		女性	20	17	3	6	0	6	16	0	0	68	
R元	50~59才	男性	4	13	1	3	0	2	9	0		32	84
		女性	11	15	2	2	0	5	17	0		52	
R2	50~59才	男性	3	3	1	1	0	4	6	0	0	18	67
		女性	15	8	6	3	0	6	11	0	0	49	
R元	60~69才	男性	3	4	3	3	0	1	10	0		24	37
		女性	6	4	1	1	0	0	1	0		13	
R2	60~69才	男性	2	4	1	1	0	0	4	0	1	13	25
		女性	1	4	0	1	0	2	4	0	0	12	
R元	70~79才	男性	2	5	1	2	0	1	1	0		12	34
		女性	8	6	1	0	1	4	2	0		22	
R2	70~79才	男性	1	4	2	3	0	0	5	1	0	16	35
		女性	5	5	2	2	0	1	4	0	0	19	
R元	80才以上	男性	1	3	0	1	0	3	2	0		10	25
		女性	9	2	0	1	0	1	2	0		15	
R2	80才以上	男性	0	3	1	1	0	2	6	0	0	13	24
		女性	1	4	1	0	0	3	2	0	0	11	
R元	合計		160	144	42	38	2	42	134	4		566	
R2	合計		152	124	47	60	2	51	147	6	7	596	

※手段としては、①過量服薬と②刃物(多くはリストカット)が多いが、令和元年度に比べて2年度はどちらも減少。
 一方で、③飛び降りと④首つりが増加しており、既遂に至る可能性の高い手段を選ぶ傾向がみられる。
 特に19歳以下で、その傾向が顕著にみられる。

④ (年齢・性別) × (原因動機) ※複数選択

	年代	性別	①家庭	②健康	③経済・生活	④勤務	⑤男女	⑥学校	⑦その他	⑧不明	合計
R元	0～19才	男性	3	3	0	1	3	3	5	2	20
		女性	11	6	0	1	5	7	4	2	36
R2	0～19才	男性	10	4	0	4	2	8	6	4	38
		女性	14	16	1	2	9	12	6	8	68
R元	20～29才	男性	8	7	4	6	3	3	5	0	36
		女性	20	44	2	10	22	2	10	9	119
R2	20～29才	男性	10	14	6	12	4	1	1	3	51
		女性	20	40	6	6	28	1	9	12	122
R元	30～39才	男性	6	14	5	7	2	0	3	3	40
		女性	18	11	1	5	7	0	5	3	50
R2	30～39才	男性	7	11	6	7	6	0	3	7	47
		女性	20	28	8	3	7	1	2	3	72
R元	40～49才	男性	9	15	8	5	3	0	3	7	50
		女性	17	36	2	3	5	0	9	8	80
R2	40～49才	男性	8	10	7	6	0	0	4	3	38
		女性	23	32	3	1	6	1	6	7	79
R元	50～59才	男性	3	18	8	1	2	0	4	3	39
		女性	18	27	4	2	0	1	3	5	60
R2	50～59才	男性	3	8	0	3	1	0	3	3	21
		女性	17	20	6	1	4	0	2	6	56
R元	60～69才	男性	3	13	6	2	0	0	1	1	26
		女性	4	7	0	1	1	0	3	0	16
R2	60～69才	男性	2	6	1	2	0	0	3	0	14
		女性	2	7	0	0	0	0	0	2	11
R元	70～79才	男性	1	10	1	0	0	0	0	0	12
		女性	3	16	1	0	0	0	4	0	24
R2	70～79才	男性	7	7	0	0	0	1	4	0	19
		女性	6	12	0	0	0	0	1	0	19
R元	80才以上	男性	2	7	0	0	0	0	0	1	10
		女性	6	8	1	0	0	0	2	0	17
R2	80才以上	男性	6	6	0	0	0	0	1	0	13
		女性	5	5	1	0	0	0	0	1	12
R元	合計		132	242	43	44	53	16	61	44	635
R2	合計		160	226	45	47	67	25	51	59	680

※原因動機として、②健康問題が多いが、令和元年度に比べて令和2年度は減少。

一方で、①家庭問題 ⑤男女問題 ⑥学校問題が増加。

※19歳以下の男性は①家庭問題 ⑥学校問題、女子は②健康問題 ⑤男女問題 ⑥学校問題の増加が顕著。

20～29歳の男性は②健康問題 ④勤務問題の増加が顕著。

30～39歳の女性は③経済・生活問題の増加が顕著。

⑥ 「支援終了」類型別 内訳

「支援就労」類型別	令和元年度	令和2年度
対象者の死亡（自殺既遂）	6	7